

ハッピー*トリマー®

2004
November
VOL

10

海外で学ぶ・ 働く・ショーに行く!



ペット・カット・セレクション
トイ・プードルの
ピッツバーグ・ダッチ・クリップ

総額10万円プレゼント!

最新シザーケース・ コレクション

ヨーロッパの犬界女性名人
リネー・S・ヴィレス
インタビュー

めざせ!
シザーマスター
スクール・ガイド
トリミング前の
5分間の獣医学



ミニチュア・ シュナウザー大特集

カッコよく
ショー・アップ

キュートに
ペット・カット

ことは、積極的に質問することにも必要です。それと、せっかくステキな技術があるのだから、シエルターにいるワンちゃんや猫ちゃんたちにボランティアでトリミングするのいいと思います。動物保護センターを見学したりするのもよいのでは?

言葉なんて後に付いてきます。THINK FOR YOURSELF、とーんと来いです!



エレクトリック・テーブルは自前の必需品。

海外のドッグ・ショーを体験する!

一度は行ってみたい、外国のドッグ・ショー。海外研修に見学を探り入れているスクールも多いですね。せっかくの貴重な体験ですから、見どころを押さえて、予習もバッチリで挑みましょう! アートグルーミングスクール学長の深町政彦先生にお話を伺いました。

海外のドッグ・ショーと聞いて何を感じますか? 「見に行きたい」、「参加してみたい」、「日本のショーと何が違うの?」などいろいろな感想があると思いますが、そんなお話をしたいと思います。私も海外のドッグ・ショーには数えるほどしか行っていませんが、その中でもうれしかったこと、悲しかったこと、いろいろなことがありました。

まず、観覧している人の多さと、声援のすごさにびっくりします。出陣頭数も多いのですが、人の数もそれ以上に多く、自分のお気に入りの

犬がリンクに出た瞬間、まるで大スターが登場したかのように、黄色い悲鳴や指笛でその犬を応援します。確かに犬の世界の大スターには違いないのですが……。犬がラウンドすれば大声援、フリー・ステイが決まれば大声援と、お祭りのような騒ぎです。日本のドッグ・ショーでは見られない光景です。犬たちもその声援に反応して、「私を見て」、「美しいでしょ」と言わんばかりに、堂々としたパフォーマンスを見せてくれます。そのしぐさが非常に愛らしく、笑みがこぼれてしまいます。

ポイントを押さえて有意義な体験に!

国によっていろいろなドッグ・ショーがありますが、その中でも有名な、米国の「ウエストミンスター・ケネル・クラブ ドッグショー」、ブロード・クラブ・オブ・アメリカ (PCA) ドッグショー、英国の「クラフト ドッグショー」、FCI最大の「ワールド・ドッグショー」などは、ぜひ観戦していただきたいショーです。

ハンドリングを勉強中の方は、海外の有名ハンドラーのパフォーマンスを見て勉強するのもよいでしょう。質の良い犬たちを引き立たせるテクニックは素晴らしいものがあります。「私もこんなふうな犬を操ってリンクに立ってみたい」と思う人は多いと思います。私もそのひとりでしたから。

トリミングを勉強中の方は、バドックに入り、カットなどの勉強するのもよいでしょう。嫌な顔をせずに見学させてくれますが、仕事の邪魔にならないよう注意してくださいね。私がトリマーになりたてだったころ、「米国人は仕事で雑で日本人のほうが数段技術が上だ」と聞いたことがあります。が、けっしてそうではありません。むしろ米国人のほうがカットイング・セリンスがあると思います。ゴージャスで奇麗なトリミングをしますから、ぜひ見学し、良いところを自分のものにしてください。ショー会場ではチャンピングをしてしまうのも驚きでした。

日本人のハンドラーやアシスタントもたくさん活躍していますので、話かけてみればいろいろなことを教えてくれるかもしれませんよ。英語が話せる人は外人ハンドラーさんにも質問し



上: クラフト展 (2003年、写真提供: 杉浦市郎)
下: ウェストミンスター展 (2003年、写真提供: 北海道愛犬美容学園)



てみてください。英語が話せれば、とても充実した観覧ができると思います。

各国によってグループ分けもさまざまです。で、見たい犬種は朝のうちにチェックして、リンク・時間等を間違えないようにしましょう。大きなショーですと、会場も広く、リンクも数多くあります。せっかく海外まで行って見学するので、見逃すことのないようにしてください。

各国の原産犬は必見です。原産犬は歴史が古く、よりスタンダードに近い犬がエントリしています。エントリーの頭数も多いです。また、日本では見られない犬種もたくさんエントリしていますので、できれば全犬種のハンドブックを持参することをお勧めします。大きなドッグ・ショーの前後には、多くのスペシャリティー・ショーもありますのでぜひ見学してください。

日本を含む世界のブードルが一堂に

ブードルも必見です。国によってタイプや

サイズ、毛色なども違いますし、PCAでは、トイ・ブードルのエントリーも多いですが、ミニチュア・ブードル、スタンダード・ブードルのエントリー頭数がそれにも増して多いことに驚きます。20頭以上のスタンダード・ブードルがリンクに並ぶ光景は、重圧感があるというか、すばらしさに目を見張るものがあります。日本のスペシャリティー・ショーでも見ることができない光景です。また、国内だけではなく、世界各国からブードルたちがエント

リしていますので、さまざまな国の個性を持つブードルが見られるのも魅力のひとつです。もちろん日本で生まれたブードルもたくさんエントリしています。私も自家繁殖犬とともに2004年・PCAにエントリーさせていただきましたが、私の出場したクラスでも、日本で生まれた犬たちが3頭も出場していました。3頭ともにビックアップされ、1頭はみごと入賞されました。トイ・ブードルのBOV・BO S・Best of Winner受賞犬は、日本で生まれた犬たちでした。今の日本の犬たちはそれだけレベルが高く、世界的にも注目されています。これも、長年にわたる諸先生方の築き上げの賜物ではないでしょうか。海外のドッグ・ショーを観戦するときは、ぜひ日本生まれの犬たちを応援してあげてください。みなさんが知っている犬舎の犬が出場しているかもしれません。

海外のドッグ・ショーに参加するには、信頼できる人たちの応援、協力が必要です。私も、ひとりの力では到底PCAに参加することは

きなかったでしょう。良き先生であり良きライバルである、スマッシュ・ブードルの大村さんのアドバイス、支援があったからこそPCAに参加することができました。また大村さんの友人であるマーチン・グレゴリー氏のおかげでたくさん自家繁殖犬をアメリカ・チャン

✈ ペットと一緒に渡航したい

離れてなんて暮らせない～！
愛犬と飛行機に乗るにはどうしたらいい？

国際線にペットを乗せる際の条例は、「国際運送約款」第10条(手荷物)に下記のように定められています。
(2004年4月1日発行、原文は英語)

(K) (動物)

(1) 犬、猫、小鳥その他のペット等の動物については、会社は、旅客がその動物を適切な容器に入れ、到達国又は通過国で必要とされる有効な健康証明書、予防接種証明書、入国許可書その他の書類を取得し、かつ、会社の事前の承認がある場合に、会社規則に従ってその運送を引受ける。

(2) 会社が動物の運送を引受けた場合、その動物はその容器及び飼料とともに旅客の手荷物許容量の適用を受けず、超過手荷物となり、旅客は会社規則に定める料金を支払わなければならない。

(3) 前号にかかわらず、会社は、身体に障害のある旅客を補助するために、当該旅客が同伴する補助を目的とする犬を、会社規則に従い、その容器及び飼料とともに、通常の無料手荷物許容量に追加して無料で運送する。

(4) 会社は、旅客が会社規則に従うとともにその動物についてすべての責任を負うという条件のもとで動物の運送を引受ける。会社は、理由のいかなる場合もその動物の運送に関わる傷害、紛失、延着、病気又は死亡について一切の責任を負わない。

(1) にあるように、渡航先や航空会社によって取り

扱いの規定は異なります。小型犬の場合はおおむね、1頭は機内持ち込み可(渡航先によっては不可)、2頭目以降は受託手荷物となります。座席のクラスや犬種によっては、機内に連れて入れない場合があります。

実際にペットと一緒に飛行機に乗ることが決まったら、必要な書類やケージのサイズと材質の規定、予約の要不要などを、利用する航空会社に確認しておきましょう。各社のホームページでも調べることができます。最近では、ペット同伴者のためのサービスを設けている航空会社もあります。

フライト中の心配

■水や食餌は？

飛行中、原則的に機内に持ち込んだケージからペットを出すことは禁止、水を飲ませることはOKでも餌はダメ、という場合がほとんどです。あらかじめ十分な水と食餌を与えておきましょう。ただし満腹状態でのフライトも良くありません。書類上必要になる場合があるので、最後に食餌を与えた時間を覚えておきます。

■貨物室って寒くない？

受託手荷物として預けられたペットは貨物室に入りますが、動物を乗せる貨物室は温度調整機能が付いていて、おおむね20度前後に保たれています。

どのようなケースでも、愛犬の健康状態は万全にして同行させましょう。また、事前の条件確認を怠ると、チェックインのときに規定のケージの購入を求められるなど、思わぬ出費をすることになります。

ピオンにしていたとき、PCAでは、BOSという素晴らしい賞をいただくことができました。これもみなお二方のおかげだと思っています。本誌を借りてお礼申し上げます。

海外のショーに犬を出陳するには

次に、米国を例に犬を渡航させる方法を説明します。犬を送るまでに日本国内でいろいろな手続きや検査が必要となります。

まずは、JKCから輸出血統書を発行してもらいます。「いつから」「何のために」米国に犬を輸出するのかをJKCに報告します。それと平行してDNA鑑定をし、マイクロチップまたはタトゥーを入れてもらいます。次に、獣医師による健康診断と予防注射の接種です。渡米する1週間以内の診断書が必要であり、今現在すべての伝染病に感染していないことを証明する診断書がよいと思われます。狂犬病の予防注射は3カ月前に接種しましょう。混合ワクチンは1カ月前に接種し、狂犬病予防注射、混合ワクチン接種の証明書を発行してもらってください。犬の健康管理はとても大切です。渡航当日がベスト・コンディションになるよう十分管理してください。長旅のストレスや疲労で体調を崩す場合もあります。

すべての書類が整いましたら、搭乗の30分前までに空港検疫所に犬と一緒に待つてください。簡単な健康診断と輸出の書類を作成してくれます。航空会社には、自分がチケットを取るときにケージの大きさ等を申し出てください。これで出国の手続きは終わりです。海外のドッグ・ショーに参加する場合、申し込みは現地でハンドリングしてくださるハンドラーさん、ま

たは詳しい方に任せたいほうがいいと思います。米国のドッグ・ショーに参加している愛犬の結果等は、インターネットで確認できます。

帰国後は、2週間の検疫が待っています。検疫中1回から2回、検疫所に足を運んでシャンプーや手入れなどをします。久しぶりにわが愛犬と対面するのですが、その喜びようといったらありません。「会いたかった」「もう帰れるの」と言わんばかりに全身で喜び、甘えてくるしぐさに目頭が熱くなってきました。検疫が終わるまでは帰れませんが……。手入れが終わると、検疫所の方にまた愛犬を預けるのですが、「どうして帰れないの?」という目で見つめられ、後ろ髪引かれる思いで車に乗り込みます。もう、こんな思いはさせたくないと思ってしまいます。まだまだ、プロにはなりきれない私の甘い部分なのでしょう……。ですが、彼らシヨ・ドッグは本当にシヨが好きです。リンクに出てくる彼らは生き生きとしたパフォーマンスを見せてくれます。勝手な思い込みかもしれませんが、リンクに出てくる彼らが、輝いて見えるのは私だけでしょうか?

法律の改正で、今年10月から、帰国後すぐにオーナーの元へ帰れるようになるという朗報がありました。米国へ渡る前に狂犬病抗体の血液検査を受けた犬に対しては、即日帰れるようになるようです。米国のドッグ・ショーが、身近なものになってきましたね。2週間の検疫がなくなることは犬にとっても、飼い主にとってもうれしいことではないでしょうか。日本のドッグ・ショーでは味わえないたくさんさんの感動や発見が今お話ししたこと以上にたくさんありますから、みなさんもぜひ海外のドッグ・ショーに参加、観覧してください。